

令和6年度 学校評価書



多摩市立和田中学校

令和6年度 多摩市立和田中学校 学校評価書

学校教育目標	
『自立』と『共生』～良好な学習集団のもとで持続可能な社会の創り手を育てる～	
○通常の学級の生徒に付けたい資質・能力 ●自立：自らの決断により責任ある言動を実践とし、たくましく生き抜く力 ●共生：他者を認め、違いを尊重し、相互に理解し支え合う力 ○特別支援学級の生徒に付けたい資質・能力 ●自立：自分で考え決めて、やり抜こう ●共生：仲間を認め、お互いを理解し、支え合おう	
目指す学校像（学校経営ビジョン）	
●「創造的で活力に満ちた地域づくり」を通して生徒・保護者・地域・教職員を元氣と笑顔にする学校 ●自分の好き（すき）に手（て）を入れて素敵（すてき）なことを創造する学校	
目指す子供像	目指す教師像（大人像）
【通常の学級の生徒像】 ●自他の命と心を大切にする生徒 ●自ら学び続け、夢の実現に向け粘り強く取り組む生徒 ●公共の精神を尊び、自他を受容し、協働する生徒 【特別支援学級の生徒像】 ●よく考え、進んで行動する生徒 ●目標に向かって最後まで取り組む生徒 ●命と心を大切に、みんなで協力しようとする生徒	【自立のために】 生徒の「～たい」を尊重する。生徒の気づきや発見を大切にす。生徒を支援・ファシリテートする。生徒に任せる、委ねる。生徒の力を信じる。率先垂範する。（生徒の視点で生徒の納得のために） 【共生のために】 大人が認め合いや助け合いを実践する。何事も自分ごととしてとらえ、既存の価値観にとらわれず、自分の価値観を押し付けない。

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	主体的・対話的・継続的な学びや取組を行う学習集団の形成 ○何を学ぶのか ○どのように学ぶのか ○何ができるようになるのか ○何を実践するか			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
学力の定着に対する指標① 学校評価や授業評価において生徒の主体的な学びについて肯定的評価80%以上を目標とする	3	生徒が捉える主体的な学びは、教員や保護者の捉えと差がある。教員は、生徒が自ら学びに向かう契機となる学習活動を実践する必要がある。	B	生徒は楽しく主体的に学べている意識があるが、教員の意識との乖離があるので、教員の工夫も必要。

<u>生徒主体の授業に対する指標②</u> 学校評価や授業評価において 生徒の主体的な学びを促す授業改善について肯定的評価 80%以上を目標とする	3	教員が、主体的に取り組む生徒の増加を実感できるような授業構成や学習課題設定を行っていく。	B	主体的に取り組める環境が引き続き必要である。生徒が集中できる雰囲気では授業は進んでいる。自己評価の目標設定の仕方には一工夫必要である。
<u>探究的学習の推進に対する指標③</u> 学校評価や授業評価において 生徒の主体的に課題設定・課題解決する授業改善について肯定的評価 80%以上を目標とする	3	生徒が主体的に課題設定・課題解決していると捉えた教員は半数を切った。各教科等で、日常的に課題解決学習を展開し生徒がその効果を実感できるようにする必要がある。	B	
評価のまとめ	生徒は、学習に取り組む姿勢をもっているが、課題設定をするなどして自ら求めて学んでいこうとする積極性はいまひとつである。教員も、求められている学力観に基づき、生徒の学習意欲を喚起する授業となるよう質的転換を図る必要がある。			

(2) 豊かな心の育成

重点目標	命と心の尊重 ○生徒主体主義（小若条例・子ども真ん中） ○自己肯定感の向上 ○多様性・人権感覚を醸成する ○公共心・貢献心の育成			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
<u>生徒主体主義に対する指標①</u> 生徒保護者アンケートの肯定的評価が85%以上を目標とする	4	生徒同士の学び合いや支え合いが日常の姿になっている。その内容がさらに濃くなるよう、課題提示や設定を工夫していく。	A	概ね居心地のよい学校生活になっているようだ。学び合いや支え合いをする機会が多く、それを実感している。学校に行くのが楽しいと感じている生徒が多いので、悩みを抱えている生徒を少しでも減らしたい。
<u>学校に行くのが楽しい②</u> 生徒保護者アンケートの肯定的評価が85%以上を目標とする	4	どの学年も9割の生徒が楽しいと感じている。残り1割の生徒も楽しいと感じる要素を入れることが、必要であり効果的と考える。	A	
<u>多様性の理解に対する指標③</u> 学校生活諸問題の対応の中で形成的評価を行う	4	「ふれあい月間」での取組をはじめ、各活動中の機を捉えて他者の見方や捉え方が意識できるよう指導や支援を行っていく。	A	
評価のまとめ	昨年度よりも高評価となった。楽しい学校生活が、生徒主体で教育活動が進むことによって可能となり、加えて多様な他者と互いに理解し合うことによってさらに豊かなものになることが期待できる。			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	自身の健康について理解し、心身の健康に努める姿勢を育む 認め合い、助け合い、励まし合い、競い合う人間関係の構築 良好な学習集団の創造（居場所・絆づくり）			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
健康教育の充実に対する指標① 生徒保護者アンケートの肯定的評価が85%以上を目標とする	4	各種の健康や安全に関わる学習が、理解でき身に付いているといえる。	A	講演や体験を通し、よりよい学びを得ている。

体力の向上に対する指標② 生徒アンケートでの肯定的評価85%以上を目標とし体力調査においては都平均以上を目標とする	3	運動系の部活動や地域のスポーツ団体に加入していない生徒の基礎体力作りに結び付く取組を、保健体育の学習を中心に行っていく。	B	今まで以上に家庭と連絡をとり、健康に過ごすことが大切。家庭や学校医と連携した生活習慣の改善に努めてほしい。絆づくり、居場所づくりは継続課題である。
居場所・絆づくりに対する指標③ 生徒保護者アンケートの肯定的評価が85%以上を目標とする	3	居場所や絆づくりに行事をはじめとする各活動が効果的だと言えるが、企画や提案等、より能動的に関われるように工夫していく。	B	
評価のまとめ	心身のバランスのとれた体力づくりと健康の保持増進については、適切な知識を得て生活に活かせるよう、家庭の協力も得ながら継続して指導することで効果が出ると考えられる。			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	家庭との連携強化による健全育成の推進 地域運営学校としての協働体制の推進			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
「情報発信」に対する指標① 保護者地域アンケートにおいて肯定的評価が85%以上を目標とする	4	日々更新されるHPへの評価が高い。また、スクールキャストでのお知らせも適時行っている。	A	情報発信の努力を感じる。積極果敢な提案からの行動に好感がもてる。外部人材の有効活用ができています。
コミュニティ・スクールとしての体制づくりに対する指標② 保護者地域アンケートにおいて肯定的評価が85%以上を目標とする	3	学校運営協議会だよりの発行、青少協活動への生徒参加を学校だよりに等で称賛すること、地域人材のより効果的な活用に取り組んだ。	B	コミュニティスクールの意義や学運協の役割をもっと周知していく必要がある。
外部人材を活用した教育活動の推進に対する指標③ 保護者地域アンケートにおいて肯定的評価が85%以上を目標とする	3	様々な機会を捉えて外部人材を活用し、授業や行事において指導・支援に携わってもらっている。	B	
評価のまとめ	今年度は学校運営協議会を1回増の6回開催し、学校からの情報提供と委員からの意見把握に努めた。HPやスクールキャストを中心とした積極的な情報発信は保護者から高評価だった。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

今年度改訂した教育目標「自立と共生」の達成に向け、教育活動の各場面で生徒が主体的に動く『良好な学習集団』が成長するように取り組んでいく。さらに地域行事や地域のボランティア活動への積極的な参加を実現し、地域とともに自立し共生社会を創造できる生徒を育成していく。このことの積み重ねが「生徒・保護者・地域・教職員を元気で笑顔にする学校」に結び付いていくと考える。

また、生徒一人一人の特性に合った対応を継続するとともに、いじめや不登校を起こさない風土を創るために「多様性の理解の促進」「インクルージョン」を来年度も重点的に行う。

そして、保護者や地域人材との連携を引き続き進め、教育活動に携わっていただくことで「コミュニティスクール Team 和田中」の完成を目指す。その一助として、保護者や地域と共に歩む学校であるために、風通しを良くし、HPなどによる学校情報の発信に力を入れ、和田中に関心をもっていただく。それに加え、令和6年度の文部科学大臣賞を受賞した和田中PTAや3地区の強力な青少協との連携も引き続き重視する。

最後に、和田中をすべての側面から支えていただいている本校学校運営協議会の方々のご支援ご助言を常に求めていく。

以上のとおり報告いたします。

令和7年2月13日

多摩市立和田中学校 校長

生田 目将

